

大声測定器

今も昔も変わらぬイベントの定番
ユニークなテーマで叫んでみてください。ストレスも発散できます。
厳密な音圧を数値で表示でき最大値のみでなくリアルタイムでの測定も可能とします。



取扱説明書

2018年5月17日



〒780-0991 高知県高知市宗安寺 591-1

電話:(088)843-1601 携帯:090-3041-6033

WebSite: <https://shikokudenshokukogei.jp/> E-Mail: info@shikokudenshokukogei.jp

ご利用のお客様へ

弊社の機材レンタルサービスは、この取扱説明書の**注意・約束**を守ってご利用頂ける方を対象にしております。機材をフルに活用するには知識が必要となります。この取扱説明書には初めての方でも、簡単にご利用頂けるよう作成しておりますので最後まで必ず目をお通しください。

まず機材を受け取られましたら、**同梱の「機材チェックシート」**を用いて、機材の**数量、状態を確認**してからご利用ください。また、**利用後も同様に確認**したのちにご発送ください。**不具合や破損などを確認した場合は、その旨をお知らせください。**



機械ですから乱暴な扱いや指示にない使い方をすると壊れる場合もあります。万が一トラブルでご連絡を頂いても取扱説明書を読んでいない方へのサポートには限界があります。

また、電話を掛ければ、いつでも十分なサポートを保障するといった体制は取っておりませんので事前に余裕を持ってテストし機械の扱いに慣れてください。いいイベントが出来ることをスタッフ一同願っております。

四国電飾工芸

注意事項

- ◇ 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- ◇ 本製品は機能追加、品質向上のため予告なく仕様を変更する場合があります。継続的にご利用いただく場合でも、必ず取扱説明書をお読みください。
- ◇ 本書の内容につきましては万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記入漏れなどお気づきの点がございましたら、弊社までご一報ください。
- ◇ 弊社では、本製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、本書の不審点や誤り、記載漏れに関わらず、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◇ 本製品の故障などにより、人身事故、火災事故、社会的な損失などが生じても、弊社はいかなる責任も負いかねます。

－ 目 次 －

Page 1	表紙
Page 2	ご利用のお客様へ（挨拶、注意事項）
Page 3	目次
Page 4	はじめに（安全にご利用いただくために、使用上のご注意）
Page 5	大切な電源について
Page 6	ふたつの梱包箱と中身
Page 7	機能の紹介、基本セットの内訳
Page 8	機材の紹介
Page 9	機器の接続(全体図)
Page 10	機器の接続(個別)
Page 11	キャノンコネクタの接続方法
Page 12	操作卓の梱包方法、設置方法(騒音計ユニット)
Page 13	設置方法(騒音計ユニット)
Page 14	設置方法(表示機)
Page 15	設置方法(表示機)
Page 16	設置方法(スタンド注意事項)
Page 17	動作の確認方法(電源投入)
Page 18	騒音計ユニットの設定方法
Page 19	動作の確認方法(表示機)
Page 20	操作卓パネルの説明
Page 21	設定方法(操作卓)
Page 22	操作ボタンと動作
Page 23	液晶画面(操作卓)
Page 24	利用方法 ①手動モード
Page 25	利用方法 ②自動モード
Page 26	利用方法 ③予選モード
Page 27	効果音
Page 28	効果音
Page 29	カラーフィルター
Page 30	機材の寸法と重量
Page 31	あと片づけの注意
Page 32	機材チェックシート(見本)
Page 33	よくある質問と答え
Page 34	よくある質問と答え、弊社へのお問い合わせ
Page 35	ふたつのLED表示機(表面)
Page 36	ふたつのLED表示機(裏面)
	資料(大声計測の注意・よくある配置・手動操作による進行例)

1. はじめに

■安全にご利用いただくために

突風が吹く、子供が周囲を走るなど表示器の転倒が予想されるシーンでは、転倒防止対策を施してください。配線に足を引っ掛けて転ぶことが無いように、人の動きを予測して配線ルートへの工夫やテープ(養生テープ)などを使って固定してください。ただし、紙テープ(クラフトテープ)の使用は粘着剤で汚くなるので使用しないでください。

屋外など風の影響を受ける場所では、スタンドの利用をやめ長机への配置やスタンドを柱などに固定するなど万が一に備えてください。

テレビ番組のようにスムーズな進行を行うためには、機器の機能を十分に理解して、司会者を含めリハーサルを行い本番のイメージをすることが大切です。特に参加者は思いもかけない行動をとるのでスタッフは事前の説明だけでなく本番中も注意を払ってください。

□ 使用上のご注意

- この取扱説明書に従い正しく”やさしく”操作してください。
- 取扱説明書を読まずに電話で安易に問い合わせをするのはやめてください。
- 機能を理解しないで操作すると想定外の事態に”不愉快”になることもあります。
- 落とせば壊れます。乱暴に扱おうと機械も”不機嫌”になります。
- 取扱説明書の指示にない接続をすると壊れることもあります。
- 水には大変弱いので、雨などがかからないよう十分ご注意ください。
- 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動中や輸送時には大きな衝撃が加わらないよう丁寧に扱ってください。
- 本機の設置場所は直射日光の当たる場所や高温になりやすい場所を避け、なるべく日影で通気性の良い場所でご使用ください。レジャー用の熱反射シート等を用意して対策を施してください。
- 電圧の安定しない発電機でのご利用はお止めください。
- 電源の詳細については「■大切な電源について」を参考にしてください
- 異常な音や異臭が生じた際は、利用を中止し電源コードをコンセントから抜いてご連絡ください。
- 長時間利用しない時は、電源を切り電源コードもコンセントから抜いてください。
- 故障や感電事故を防止するとともに、性能を維持するためにも絶対にケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理・改良が必要なときには事前に許可を得てください。

2. 大切な電源について

- 電源には家庭等で使われる「一般電源」をはじめ会館などで照明電源として用いる「調光電源」、ほかにも祭りなど仮設会場で使われる「発電機による電源」などいくつかの種類があります。「一般電源」以外でも調節により 100V 50Hz/ 60Hz を供給することができます。ただし、タコ足配線や長いコードで接続すると本来の電圧が得られなくなり機器が正常に動作しない場合があります。
- 電線には抵抗があるので負荷（機器）を接続して電流を流すと電圧を低下させます。実際の電圧は負荷を接続した状態で測る必要があります。テスターで 100V（無負荷電圧）あっても電球を点灯させたりすると電線の抵抗により機器側では電圧は低下します。それを防ぐには流す電流は少なくして短く太く接続箇所を少なく接続する必要があります。
- 例えば、お祭り会場などで電気ドラム 30m を 3 本つないで 90m で機器を接続した場合に動作しない。これも大声測定器専用の電源であれば負荷（電気使用量）が小さいので殆ど問題はありません。しかしちょうちん電球やホットプレートなどと一緒に使用すると元のコンセントでは 100V あっても 90m 離れた場所では 80V 以下となることがあります。



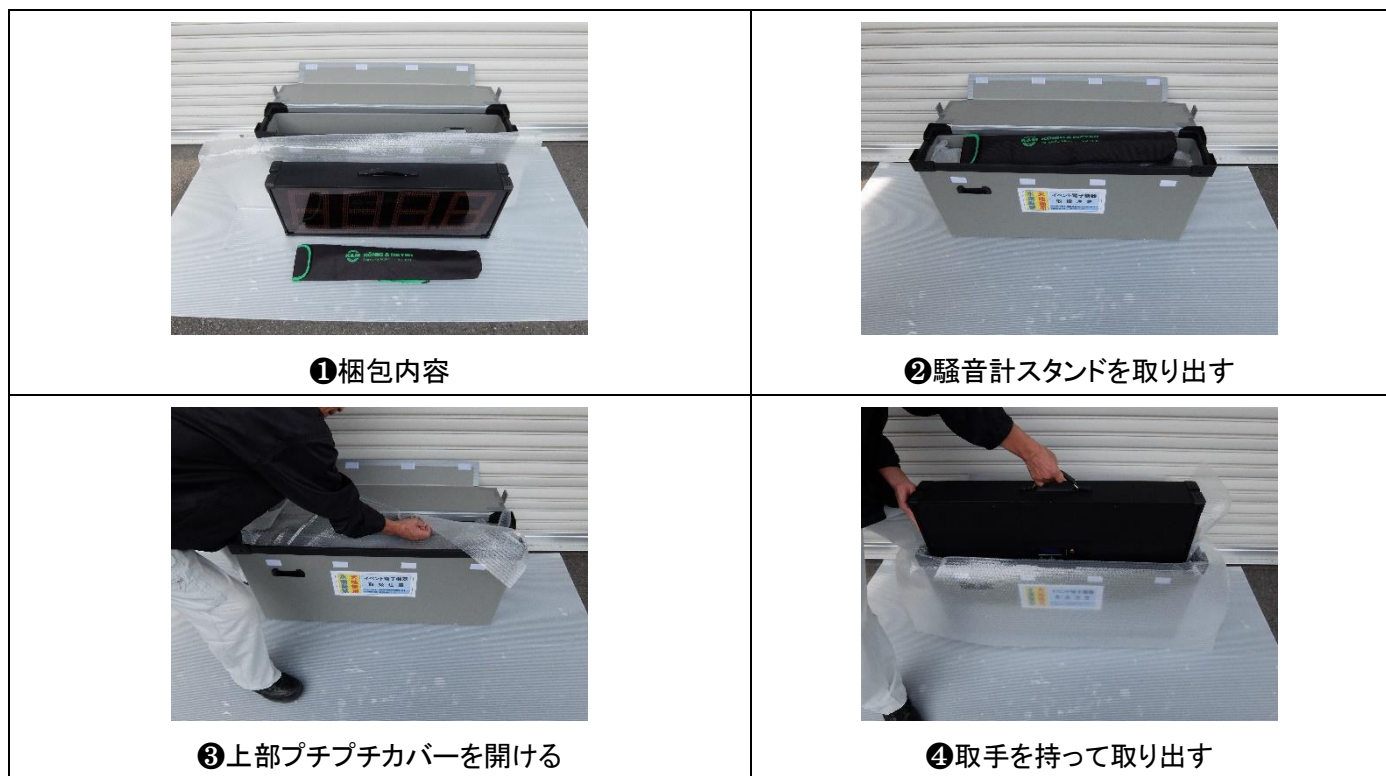
30m の電気ドラムを 3 本つなぐと・・・

- 特に古い発電機の中には電圧変動が大きなものやノイズが加わり正常の動作しないこともあります。



- 会館の壁コンセントは「一般電源」ですが照明を明暗させるための調光電源では 100%フルで送っても波形が乱れた電源しか供給できないものもあります。壁から直接の電源でない限り念のために会館職員に「パソコンなどを使っても大丈夫か？」と確認を取って利用することをお勧めします。
- 電子機器には正しい電気を送るよう細心の注意が求められます

3. Aセット箱の内容（表示機と騒音計スタンド）



3. Bセット箱の内容（操作卓、騒音計など）



4. 機能の紹介

●計測タイミングを知らせるブザー&LED(騒音計ユニット)

参加者が大声を出すタイミングを光と音でフォローする機能

●予選モード

設定したレベル以上の大声を予選通過とする機能

●リアル計測表示/ランダム数値表示

リアル:計測中の値をそのまま表示 / ランダム:計測中にランダムな数字を表示

●カウントアップ表示/一発表示

測定値をゼロから上昇変化しながら演出表示 / ボタン一発で即発表表示

●自動計測モード

ボタン1つで準備からリセットまで自動的に移行する機能

●最高得点記憶機能

最高得点を記憶し表示する機能

●操作禁止機能、通信モニター、最高得点更新アクション

操作性や演出性を上げる様々な機能

5. 基本セットの内訳

- (1) 表示機 : 1 台
- (2) 騒音計ユニット : 1 台
- (3) 操作卓 : 1 台
- (4) 表示機スタンド : 1 台
- (5) 騒音計スタンド : 1 台
- (6) 表示器電源コード : 1 本
- (7) 操作卓⇔騒音計ユニット通信ケーブル 15m : 1 本
- (8) 操作卓⇔表示機通信ケーブル 15m : 1 本
- (9) マニュアル 機材チェックシート : 各一部



6. 機材の紹介



<表示機>



<騒音計ユニット>



<操作卓>



<スタンド2種類・電源コード>



<通信ケーブル 左:表示機 右:騒音計ユニット>

7. 機器の接続 (全体図)

- ①：操作卓、騒音計ユニット、表示機の設置場所をケーブルの長さや電源の位置を考慮して決める
 - ②：操作卓と表示機へ電源 AC100V を準備する。操作卓は専用ケースに入れたままで使用する
 - ③：騒音計ユニットと表示機を各専用のスタンドへ取り付け
 - ④：操作卓⇄騒音計ユニットを通信ケーブル（キャノン4Pin1.5m コネクタ部黄色）で接続
 - ⑤：操作卓⇄表示機を通信ケーブル（キャノン5Pin1.5m コネクタ部緑色）で接続
- ※通信ケーブルにはオスメスの区別があるので操作卓側へオスを接続してください



8.1 機器の接続（個別）



<操作卓>



<騒音計ユニットへ4Pin 通信ケーブルを接続>



<表示機ウラ面>



<表示機へ5Pin 通信ケーブルと電源を接続>



<表示機電源コード>



<(左)5Pin・(右)4Pin 通信ケーブル>

8.2 キャンコネクタの接続方法



<通信ケーブルの接続>
カチッと音がするまで差し込む



<通信ケーブルを外す>
金具ピンを押しながらプラグを抜く



<効果音出力へケーブルの接続>



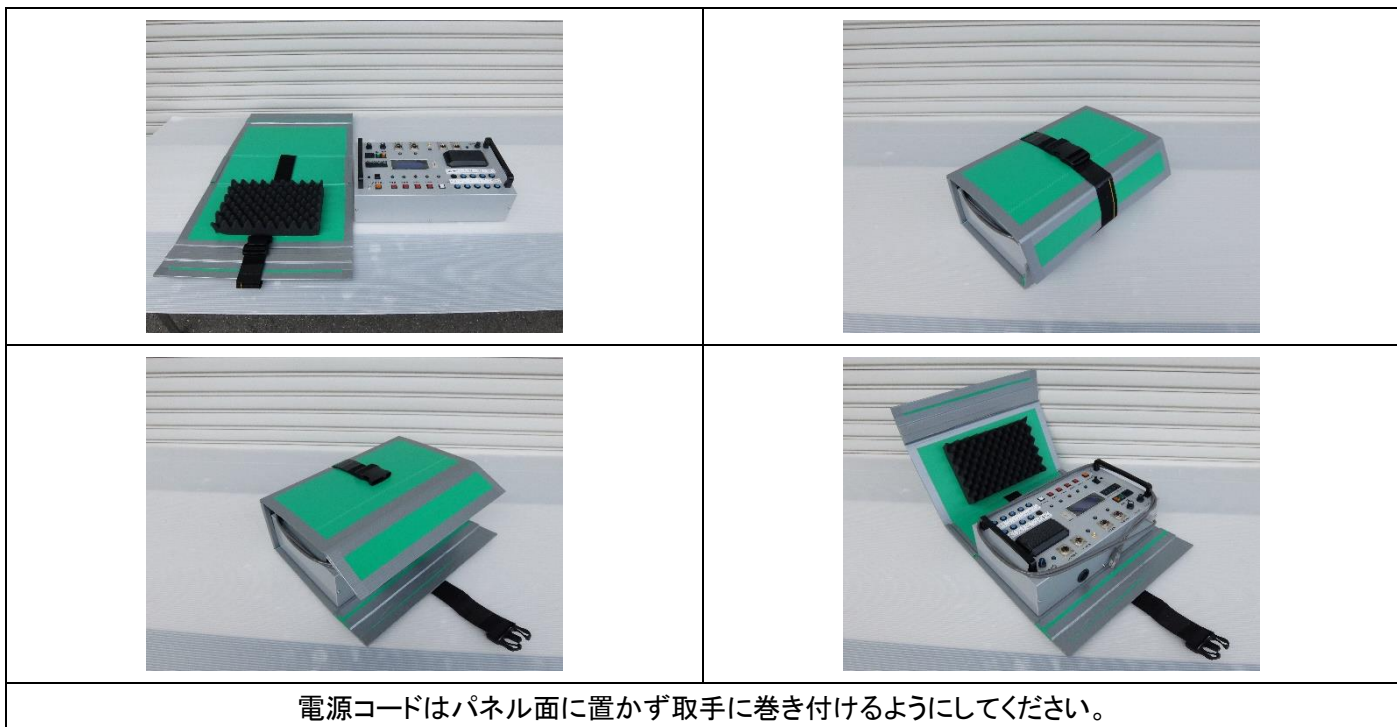
<効果音出力へケーブルを外す>
金具ピンを押しながらプラグを抜く



<表示機通信5Pin ケーブル>

<騒音計ユニット通信4Pin ケーブル>

9 操作卓の梱包方法



10.1 設置方法（騒音計ユニット）





①右手:ネジをゆるめる



②左手:上に支柱を引き延ばす



③右手:脚を広げる



④3本の脚を広げた状態



⑤騒音計ユニットを差し込む



⑥右手:ネジをしめる



⑦右手:ネジをゆるめ騒音計ユニットの高さを調節



⑧右手:上部の高さ調節

10.2 設置方法（表示機）



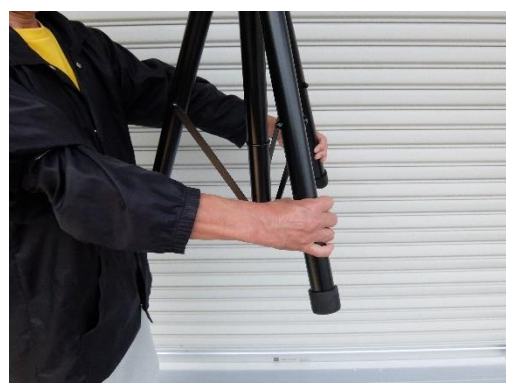
完成写真



収納時の状態



①右手:ネジをゆるめる



②脚を持って広げる



③ネジをしめる



④支柱を伸ばしてネジをしめる



⑤支柱の最上部



⑥高さ調節: 赤線が見えない位置まで下げてください。



⑦表示機とアダプタ



⑧アダプタを取り付ける



⑨スタンドへ載せる



⑩各部のネジを締める



⑪ロックピンを差し込む



⑫ピンを差し込んだ状態

10.3 設置方法（スタンド注意事項）

※危険回避！

表示機が万が一でも転倒した場合、人に当たれば大きな事故につながる事が予想されます。周囲の状況を考慮しスタンドの高さや設置方法を決めてください。また、風の影響を受けるような場所ではオモリやゴム紐等を利用し転倒しないような対策を施してください。画像にあるような長机の上に配置することも一つの方法です。表示機へ通信ケーブルと電源コードの2本接続します。コードに足を引っ掛け表示機を転倒させることが無いように配線経路や配線養生を工夫してください。



＜長机に載せた表示機＞



＜広げた脚が狭いため不安定な状態＞



＜安定の広さ＞



＜片付けの際の間違い（長くなりケースに収まらない）＞



＜正解：支柱を脚の中に収める＞



騒音計ユニットまでの距離を一定に保つために足元にラインを引いている
表示機は操作卓オペレーター、司会者、参加者、観客から見える位置へ配置する

1 1. 動作の確認方法（電源投入）

- ① 全ての接続を完了させる
- ② 表示機の電源(オレンジ色スイッチ)を投入する。
- ③ 操作卓の電源(オレンジ色スイッチ)を投入する。
騒音計後部の赤色LEDが点灯する

12. 騒音計ユニット



騒音計ユニット、騒音計スタンドなどの高さや向きの調節の際に

ネジを締め過ぎないように注意してください。

返却の際はゆるめたネジは軽く締めネジの紛失を防止してください。



- 信号入出力(キャノン 5Pin)
操作卓へ4Pin ケーブルで接続
- 電源入力(未利用)



- LED5個(常時レベル点灯)
緑1:70dB 緑2:80dB 緑3:90dB
黄:100dB 赤:110dB



- LED2個(同じ動作)

- ①準備:赤点滅 ●●●●●
- ②計測中:緑点灯 ●●●●●
- ③計測終了:消灯 ●●●●●

1 3. 動作の確認方法（表示機）



【表示機のウラ面】



【表示機の接続パネル】

- ① 設定スイッチ[0]利用モードを確認する。
- ② 電源スイッチ(オレンジ色スイッチ)を投入する。
- ③ 液晶画面左側のLED点灯はすべて消灯

※液晶表示が乱れることがあります。測定値に影響はありません。気になる場合は電源を一度入れ直してください。

※表示機テストモード（表示に問題が無ければ使用しなくてもよい）

設定スイッチを[1]へ切り替える 赤色LED点灯

表示テストモードは[0. 0. 0. 0.]→[1111]→[2. 2. 2. 2]→[3333]→と数字を変化させる

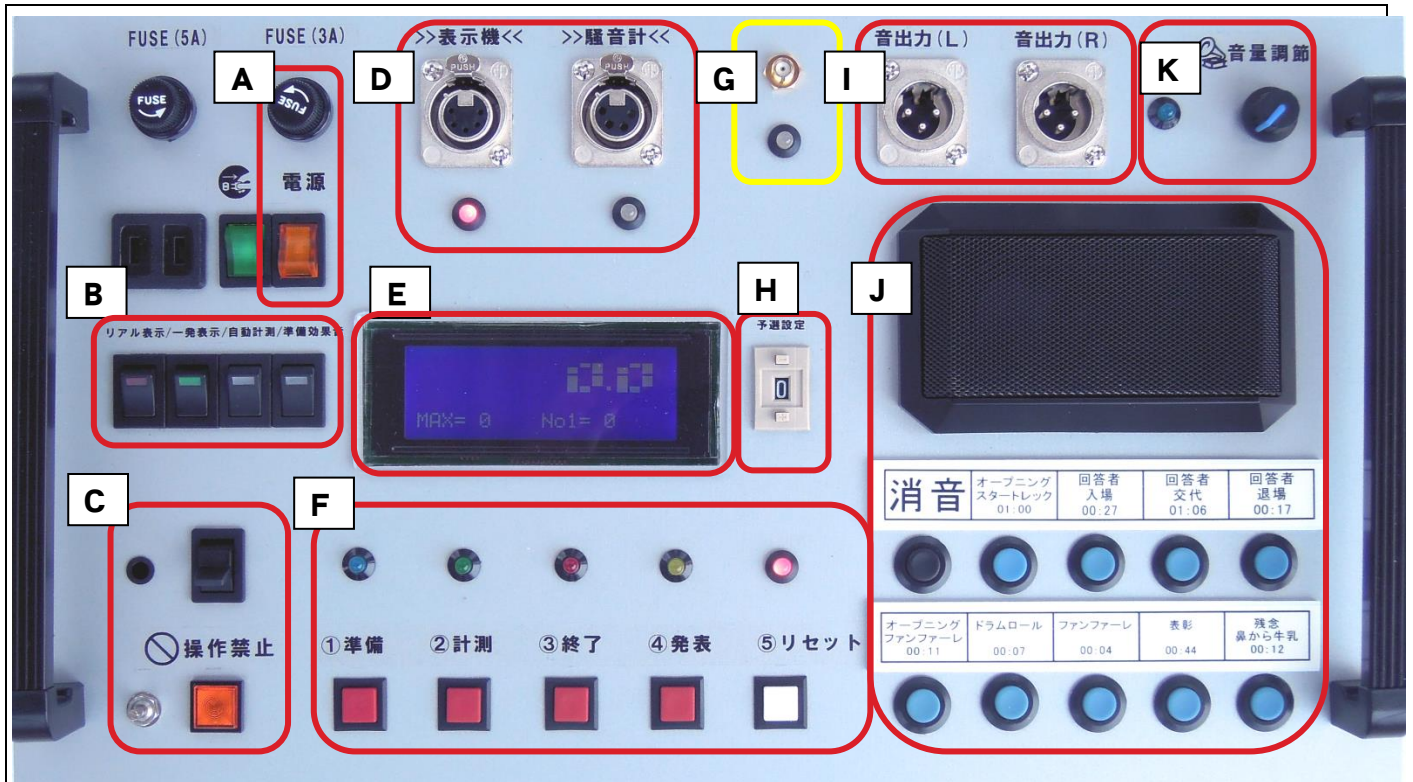
ドットについては、大声測定器では不要な桁のドットは隠している。

液晶表示は[0. 0. 0. 0.]は[0. 0]と表示

液晶表示は表のLED表示とは同期していない[0. 0]→[2222]→[4444]等の表示で問題はありません。

表示に問題なければ設定スツチを[0]の位置へ！ ※現在[1]以外の数字は全て利用モードになっています。

1 4. 1 操作卓パネルの説明



- 【A】－ [電源スイッチとヒューズ] AC100V コンセントへ接続 FUSE は 3A
- 【B】－ [設定スイッチ] 表示方法などの設定
- 【C】－ [操作禁止・液晶画面調整] 不用意な操作を防ぐスイッチ
- 【D】－ [通信] 表示機へ 5Pin コードで接続 騒音計へ 4Pin コードで接続
- 【E】－ [液晶表示画面] 騒音レベルなどを表示
- 【F】－ [操作ボタン] ゲームの操作ボタン
- 【G】－ [未設定]
- 【H】－ [予選設定]
- 【I】－ [効果音] 出力 (L : 左・ R : 右)
- 【J】－ [効果音] 効果音の選択とスピーカー
- 【K】－ [効果音] 音量調節

1 4. 2 設定方法 (操作卓)

 <p>電源</p> <p>リアル表示/一発表示/自動計測/準備効果音</p> <p>(A B C D)</p>	<p>【電源スイッチ】 オレンジ色 起動には電源を入れて0.5秒掛かります。</p> <p>【設定スイッチ】</p> <p>A: (赤LED): ランダム数値表示 (OFF側) / リアル計測値表示 (ON側)</p> <p>B: (緑LED): カウントアップ表示 (OFF側) / 一発表示 (ON側)</p> <p>C: (黄LED): 自動計測モード OFF / ON</p> <p>D: (黄LED): 準備効果音の消音 ON / OFF</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ランダム数値表示: 計測中はランダムな数字が回転 ● リアル計測値表示: 計測中は騒音計の値を表示 ● カウントアップ表示とは: ゼロから最大測定値へ数字が上昇表示 ● 一発表示とは: 即発表 ● 自動計測モード: 準備から自動的に計測、終了、発表、リセットへ移行 ● 準備効果音: 準備のボタンで鳴る効果音
 <p>予選設定</p>	<p>【予選設定】 “利用は自由”</p> <p>事前にプリセットされているレベル値 (70 dB、80 dB、90 dB、100dB、110 dB) を超えると予選通過効果音 (おめでとような音)、超えない場合は予選不通過効果音 (ざんね～ん的な音) が鳴る。設定レベル値は操作卓の液晶画面で確認することができる。</p> <p>予選モードを利用しないときは、スイッチは「0」の位置へ</p>
 <p>操作禁止</p>	<p>【操作禁止機能】 “利用は自由”</p> <p>操作禁止スイッチをONにすると、設定スイッチ、予選設定を除く全ての機能 (効果音を含む) の操作を禁止にすると同時に⑤リセット状態で待機となります。この機能は、準備中等にオペレーターが誤ってボタンを操作することを防ぎます。</p> <p>【液晶表示】 液晶画面の文字が見えにくい場合に調節するボリューム</p>

1 4 . 3 操作ボタンと動作



【制御系操作ボタン】

【①準備】: 効果音①(設定D=ON/OFF 可)、騒音計(赤LED2度点滅)(ブザーが二度鳴る)

【②開始】: 計測開始。(設定A)による表示アクション、騒音計(緑LED点灯)

【③終了】: 計測終了。表示器消灯、騒音計(緑LED消灯)

【④発表】: 計測値発表。効果音 (設定B)による表示アクション

【⑤リセット】: 表示(0.0)

【⑤リセット】: (2秒長押し): 最大値記憶の消去

リセットLEDは最大値が記録されると●赤色で点灯 消去されると●緑色で点灯

最大値記憶は電源を切るとデータは消去されます。

最高値を更新すると更新効果音と表示器点滅アクションで派手に演出

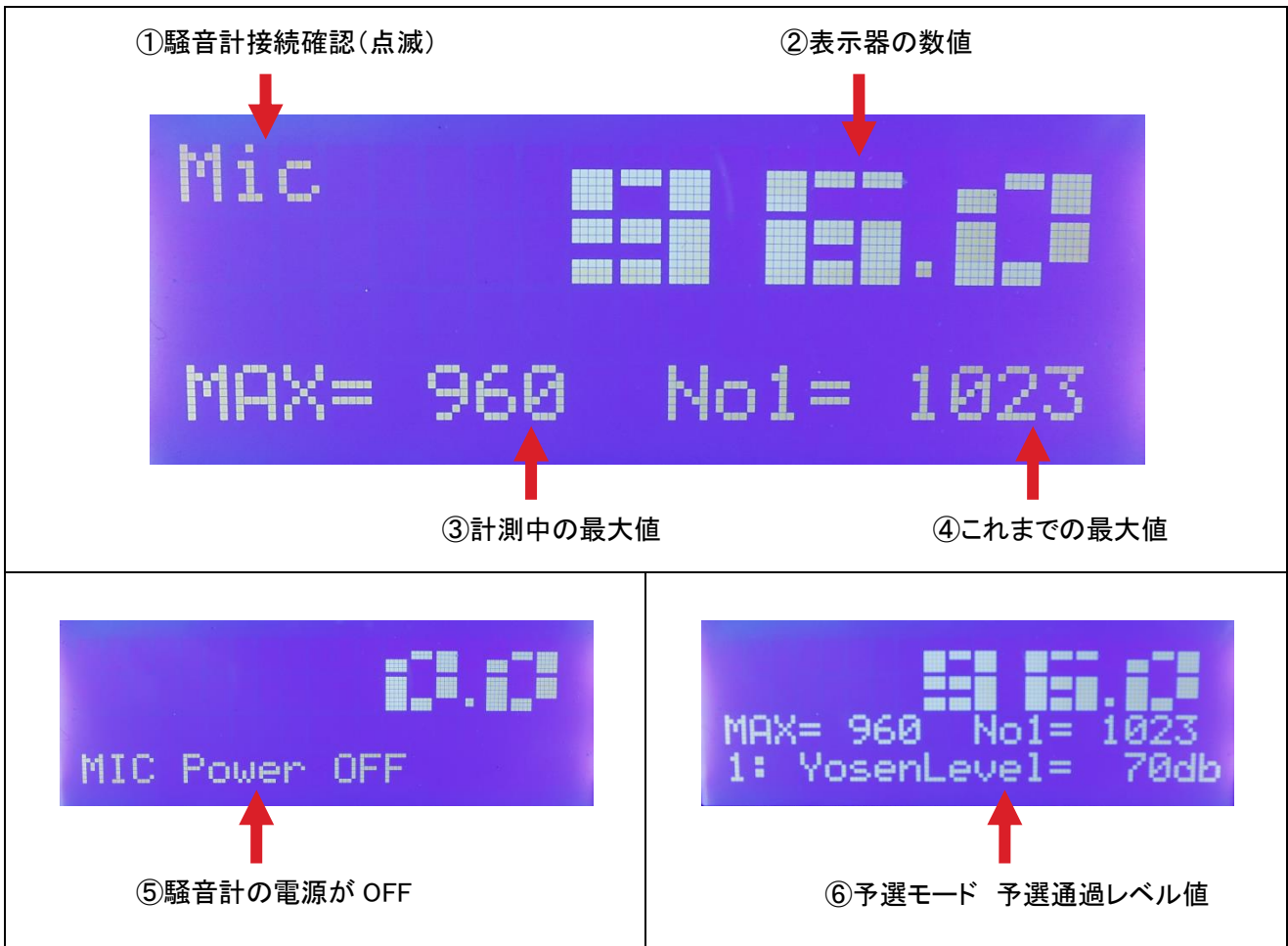
※データが空の状態を始めると最初の測定者は最高値アクションとなります。

ゲーム進行上の誤操作を防ぐために、現在の状態から次に押せるボタンを制限しています。

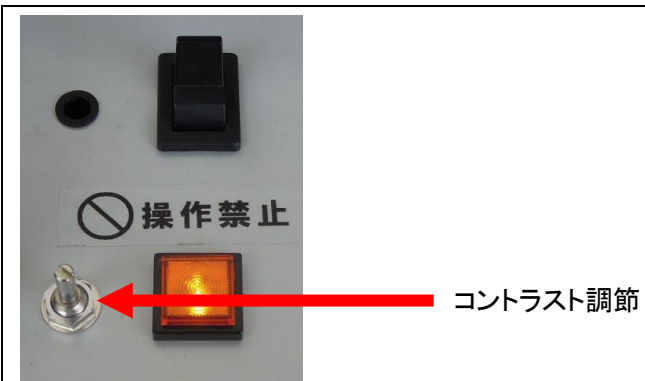
	①準備	②開始	③終了	④発表	⑤リセット	←押したボタン
①準備	▼▼▼	◇	◇	◇	●	
②開始	●	▼▼▼	◇	◇	●	
③終了	◇	●	▼▼▼	◇	◇	
④発表	◇	◇	●	▼▼▼	●	
⑤リセット	●	●	●	●	▼▼▼	
↑次に押せないボタン						

(▼▼▼=現在動作中 ●=押せる ◇=押せない 例)①準備を押したら次に③終了は押せない)

1 4. 4 液晶画面（操作卓）



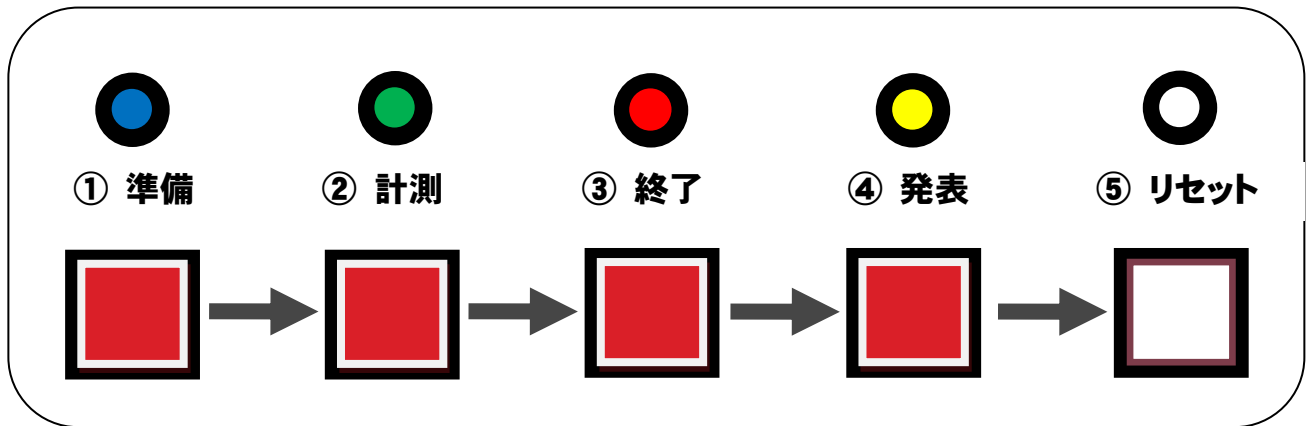
- ①: MIC=(騒音計)、騒音計との通信状態を点滅表示 切断の場合は非表示
- ②: 表示機へ出力する値
- ③: 現在の計測最大値
- ④: これまでの計測最大値(最初はゼロ、計測中に過去の値を更新すると同時に数値も更新)
- ⑤: 騒音計の電源が OFF となった場合に表示
- ⑥: 予選モードの表示と予選レベル値



液晶画面のコントラスト調整

文字が薄い場合など見にくい場合にボリュームを調節してください。

1 5. 1 利用方法 ①手動モード



特徴：自由なタイミングで操作することができます。

操 作	内 容
①準備	効果音鳴る→騒音計(赤色 LED2回点滅 ●●●● ブザー)、表示は消灯
②計測	騒音計(緑色 LED 点灯 ●)→設定Aに従い表示
③終了	表示は消灯→効果音鳴る→騒音計(緑色 LED 消灯 ● ブザー)
④発表	効果音鳴る→設定 B に従い表示
⑤リセット	表示は[00]

【注意事項】

①準備ボタンは必ずしも利用する必要はありません。

①準備から②開始への操作タイミングは騒音計ユニットで鳴るブザー音を計測しないようにするために、一定の間隔をあけるようにプログラムされています。

各操作系ボタンは現在の状態から次に押せるボタンは誤操作防止のために操作制限しています。

15.3 利用方法 ③ 予選モード



予選設定スイッチは数字の上下にある出っ張りを押しこむことで設定値を変更可能

- ① 操作卓液晶画面の横にある予選設定スイッチ[1][2][3][4][5]で予選モードON
- ② [1]:70 dB、[2]:80 dB [3] 90 dB [4] 100 dB [5] 110 dB
- ③ 設定値を超えると予選通過効果音（おめでと的な音）が鳴る。
- ④ 超えない場合は予選不通過効果音（ざんね～的な音）が鳴る。
- ⑤ 設定レベル値は操作卓の液晶画面で確認することができる。

予選モードを利用しないときは、スイッチは「0」の位置へ

自動モード、手動モードとも利用可能

【注意事項】

①準備から②開始への操作タイミングは騒音計ユニットで鳴るブザー音を計測しないようにするために、一定の間隔をあけるようにプログラムされています。

自動モード利用時でも手動のように次に押すボタンを手動操作することもできます。

各操作系ボタンは現在の状態から次に押せるボタンは誤操作防止のために操作制限しています。

16. 効果音

この大声測定器の操作卓には 16 種類の効果音があらかじめ記憶されています。
オプション対応で効果音の内容を変更することができますので必要な方は事前にご相談ください。



操作卓内蔵スピーカーの音量はスピーカー上部の音量調節つまみで適音にしてください。

効果音作動中は青LEDが点灯します。

【消音】上段左端のボタンを押すことで鳴っている効果音を停止させることができます。

会場の音響設備や持ち込みの音響設備へ効果音をステレオ出力することができます。効果音のライン出力はキャノン3P（オス）1番：グラウンド 2番：ホット アンバランス出力 レベルは固定 フルスケールで 1Vp-p 出カインピーダンス 51KΩ（不平衡）

操作卓内蔵スピーカーの音量調節で音出力のレベルを調節することはできません。効果音をフェードアウトしたい場合は音響設備側で行ってください。

外部機器への接続資料

機器	ケーブル	コネクタの形状
 ミキサーへの接続	 キャノン 3P オスメスコード	
 ギターアンプへの接続	 キャノン 3P メス-フォン	
 有線マイクで直接集音	 キャノン 3P メス-フォン	

■効果音 演出系(ボタンスイッチで操作)

対応	内容	時間	ファイル名
オープニング	スタートレックのテーマ	1分	ST9U0008.MP3
回答者入場		27秒	ST9U0009.MP3
回答者交代		1分5秒	ST9U0010.MP3
回答者退場		17秒	ST9U0011.MP3
オープニングファンファーレ		11秒	ST9U0012.MP3
ドラムロール		7秒	ST9U0013.MP3
ファンファーレ		4秒	ST9U0014.MP3
表彰		44秒	ST9U0015.MP3
残念	鼻から牛乳	12秒	ST9U0016.MP3

■効果音 操作系(ゲームの進行に合わせて自動的に鳴る)

対応	内容	時間	ファイル名
①開始	ダダダダーン!	1秒	ST9U0001.MP3
②開始	無音		
③終了	ジャジャジャジャン!	1秒	ST9U0002.MP3
④発表	軽快な曲	8秒	ST9U0003.MP3
発表 → 得点停止	パッカカパー♪	2秒	ST9U0004.MP3
発表 → 得点更新	派手な曲	2秒	ST9U0005.MP3
予選モード(通過)	おめでとう	2秒	ST9U0006.MP3
予選モード(不通過)	ざんね～ん	2秒	ST9U0007.MP3

演出系効果音はゲームの進行に関係なくいつでも鳴らすことができます。

効果音は後で押したボタンが優先となります。例)②発表ボタンを押して効果音が鳴っている最中にファンファーレや消音などの演出系効果音ボタンを押すとゲームは継続のままで効果音は入れ替わります。ゲーム進行中は不用意にボタンに触らないようにしてください。

全ての効果音は操作禁止スイッチがONの状態では利用できません。

【技術資料】

音素材 USBメモリ → SST900U フォルダ → ST9U0001.MP3～ST9U0016.MP3

※音素材転送中は効果音 LED(青)が点灯 → 転送完了後に消灯 → 電源再投入

17. カラーフィルタ



<フィルターなし 白>

イベントのイメージに合わせて演出することができます。
希望される場合は事前にご相談ください。



<オレンジフィルター>



<ブルーフィルター>



18. 機材の寸法と重量



●梱包箱のサイズと重量

1つの箱のサイズ	945mm × 195mm × 450mm
操作卓収納ケース	重量: 13kg
表示機収納ケース	重量: 14kg

●各機器のサイズなど

表示機	横幅: 860mm × 高さ: 340mm × 奥行: 130mm (mm) 突起物は除く
表示機スタンド	最短高: 950mm 最長高: 1480mm 表示機下部までの高さ
騒音計ユニットスタンド	最短高: 710mm 最長高: 1545mm 騒音計ユニット下部までの高さ
操作卓	横幅: 400mm × 奥行: 230mm × 高さ: 140mm 突起物は除く

※寸法は実測したのですがモノや扱い方によっては多少の差がありますことをご了承ください

19. あと片づけのお願い ネジが無くなるので締めてね。

【とても大切なこと】

ケーブルの信頼性こそ生命線

プロの方以外、ケーブルは巻かずに

一本ずつ箱に入れてお返してください。

- 正しい8の字巻きができない
- 腕に巻きつけて巻く
- 二つ折りを繰り返し最後に結ぶ
- 極端に小さく巻く



これらはケーブルに癖をつけ、見た目が悪くなるばかりか、スムーズな作業ができないだけでなく、信頼性の低下にもつながります。一度ついた癖は取れません。



巻かずに投げ込んでください



結ぶのは絶対にやめて



正しい巻き方をしないと
左のように癖がつきます。

上記の約束を守って頂く事を条件にレンタルしております。

あまりに酷い巻き方や返却状況については、その損害を弁償してもらう場合もありますのでご注意ください。ご協力よろしくお願いいたします。

20. 機材チェックシート(見本)

— 大声測定器 機材チェックシート —

- この度は、大声測定器のご利用ありがとうございます。
- 最初に機材数を確認して取扱説明書に従いお取扱ください。
- **利用後のケーブルは巻かずに返却してください。**
- 不明な点がありましたら 090-3041-6033 岡 までお願いします。

レンタル先:	お届け予定日 : 年 月 日
	ご利用日 : 年 月 日
	返却発送日(厳守): 年 月 日

品名	基本数(追加数)	発送確認	受取確認	発送確認
操作卓	1台()			
表示機(アタプタ付・電源コード)	1台()			
騒音計ユニット・プラ箱	1台()			
表示機スタンド	1本()			
騒音計ユニットスタンド	1本()			
通信 4Pin ケーブル 15m	1本()			
通信 5Pin ケーブル 15m	1本()			
マニュアル一部(要返却)	一冊()			
運送伝票	1枚()			
運搬用通函	2個()			
荷締めベルト(黒)	2本()			

動作確認				
見た目の異常				
(具体的に記入)				

アンケート とても満足・満足・普通・不満・とても不満 (○で囲む)

- ご意見、ご希望、ご感想などありましたらご記入ください。

21. よくある質問と答え

大声測定器以外に必要なものは何でしょうか

操作卓と表示機へそれぞれ電源（100V）、電気ドラムや延長コード
騒音計までの距離を一定に保つためのライン、得点を書き込む紙やマジックペンなど小道具

スムーズに進行させるために気を付けることは

他の催しと同じステージで大声測定を行う場合は、事前に表示機、騒音計ユニット、ラインなどの位置を決めビニルテープなどでマークします。表示機は本体だけで20kgを超える重さがありますのでスタンドに載せたままでの移動は危険です。可能であれば事前に設置することがベストですがステージ転換で準備する場合は、スタンドに一人、表示機に二人、ケーブルに一人の4人態勢で作業してください。スタンドを利用しないでキャスター付きの長机を利用すると転換は楽に行えます。

いつ最大値は計測されるのですか

計測開始から終了までの間の最大値で、その間の平均値ではありません。一時的にでも大きな声を出したらその値を最大値として計測することになります。

騒音計ユニットと参加者との距離はどのくらいがいいですか

身長のあるなしで騒音計ユニットとの距離は変化しますので大人の部と子供の部で高さは調節した方がよいと思います。一般的な測定には音の発生源から1メートルの距離をおいて何デシベルという計測方法が用いられます。大声測定はあくまでもゲームですので実際に大きな声の人に叫んでもらって100デシベル前後になる距離がよいかと思います。次回も同様のイベントを行う場合にはマイクとの距離を記録して同じにすると比較することができます。

騒音計ユニットの向きで測定結果がどの程度影響されますか

騒音計ユニットのマイクは無指向性マイク（どの方向からの音も集音する）になりますのである程度口元へ向けておくことで計測に問題はありません。距離が変わると測定結果に大きな影響を与えるため、参加者間で公平を期すためには口元から騒音計ユニットまでの距離は一定に保つ必要があります。

会場の設備が分からないので接続できるか不安

万が一、接続コードの形状などが合わずに接続できない場合は、操作卓のスピーカーへワイヤレスマイクなどのマイクを直接向けることで緊急対応は可能です。

ライン出力からスピーカーへ接続できますか

ライン出力はミキサーやアンプ、アンプ付きスピーカー等へ出力するためのレベル（音の大きさ）しかないため。直接スピーカーを接続して鳴らすことはできません。

効果音の外部出力レベルは調節はできますか

できません。レベルは固定ですので接続機器側で調節する必要があります。操作卓の音量調節で調整できるのは操作卓にあるスピーカーだけになります。手元でフェードインやフェードアウトを行いたい場合は、別途にミキサーを用意する必要があります。

効果音を鳴らさないで使用したい

音量調節でゼロにしてください。

通信ケーブルの延長はできますか

事前にご相談ください。45mでの実績はあります。

ウインドスクリーンは何のため

風の音を誤って測定することから防ぐためのもので常に付けておいて問題はありません。

転倒防止対策

ブロックなどのおもりとゴム紐でスタンドを下方向へ引っ張る

測定値をリアルタイムで表示させたい

設定スイッチ（リアル表示ON）（自動計測OFF）、②計測ボタンを押してください。

表示の明るさを落とすことはできますか？

できません。フィルターなどを利用して減光する方法が有効

ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。

四国電飾工芸

電話 (088) 843-1601

携帯電話 090-3041-6033

7セグ4ケタ LED表示器 (表面)



白色LED仕様 サイズ 横:1060mm 縦:370mm 奥行:150mm 重量:21 kg

赤色LED仕様 サイズ 横:860mm 縦:340mm 奥行:130mm 重量:10 kg

7セグ4ケタ LED表示器 (裏面)

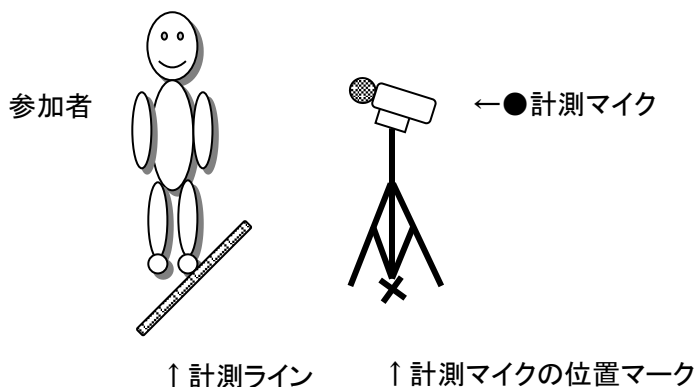


白色LED仕様 屋内向き 防滴仕様ではありません。

赤色LED仕様 屋外・屋内向き 防滴仕様ではありません。

(資料) 大声計測の注意

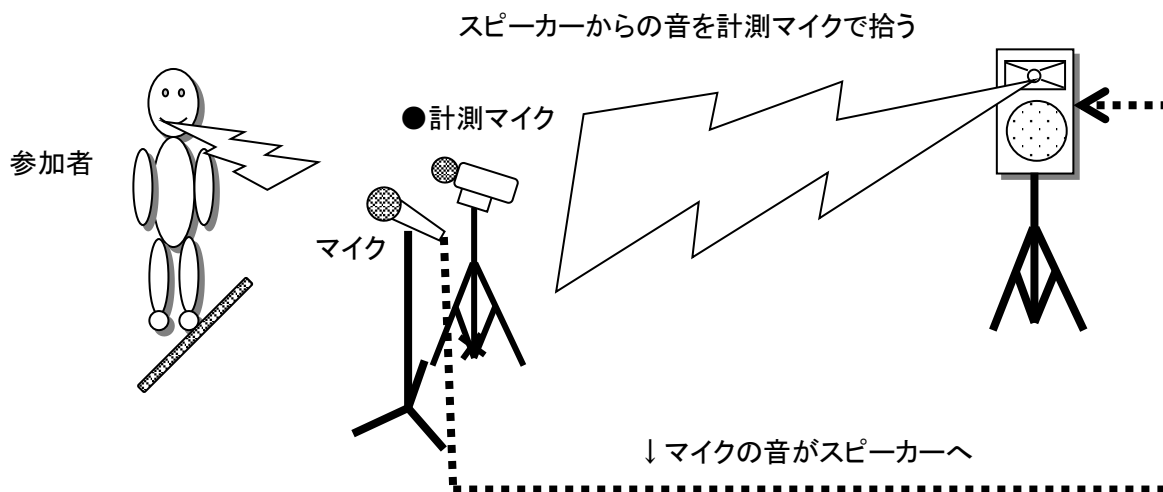
マイク・スピーカーなどの音響機器を利用している場合は、計測中は大きな音を鳴らさないようにしてください。具体的には、叫ぶタイミングを参加者へマイクを通じて司会者が指示すると、その司会者の声を計測マイクが拾い、正しい計測ができなくなります。機器を操作する方は、事前に司会者とタイミングや表示方法について打ち合わせを行うようにしてください。



※ 計測マイクと口元の距離は1メートル以上離してください。

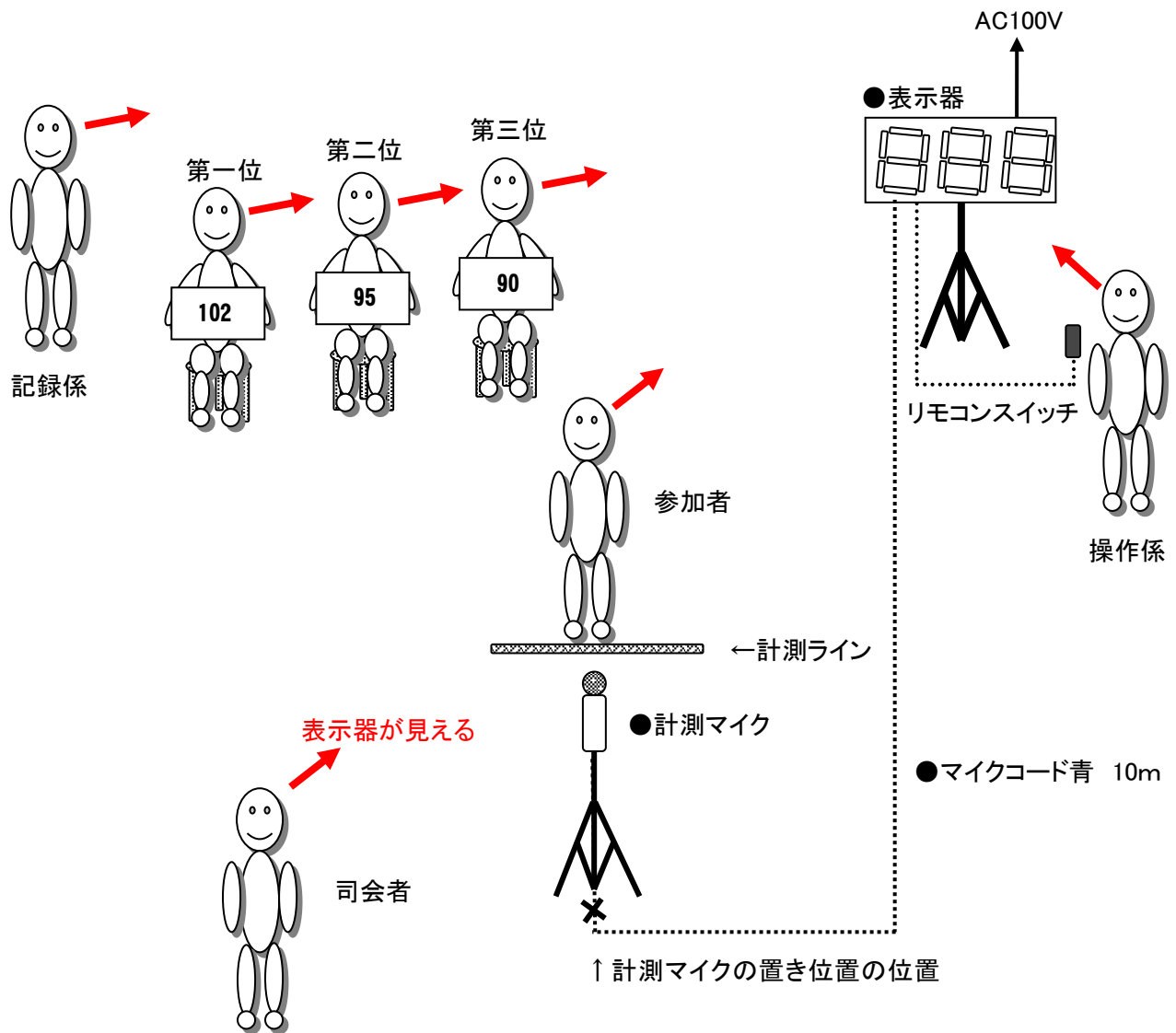
※ 「よくある質問と答え」を参考にしてください。

会場全体に参加者の叫びを届けるため、計測マイクの近くに音響マイクを配置することがありますが、周囲の状況や音響調節によっては、スピーカーの大きな音を計測マイクが收音することになります。利用する場合は、事前にテストを行い影響の有無を調べてください。



計測マイクは無指向性（すべての方向からの音を拾う）ですので、マイクの向きに敏感になる必要はありませんが、マイクまでの距離は結果に大きな影響を及ぼします。そのため、大人と子供で計測マイクの高さを調節、計測マイクまでの距離を参加者で公平にするため足元にラインを引く、これ以上口元が前に出ないように工夫するなどしてください。

(資料) よくある配置



【重要】

●表示器は、ステージ上の参加者全員から見える位置に配置してください。

(資料) 手動操作による進行例

大人も子供の大きな声で叫びましょう！叫ぶテーマは〇〇です。大声はあちらにある表示器にデシベルで表示しま〜す。みんなの声はヘリコプターよりも大きいかなー！？ さて、一人目の方です。お名前は？どこから来たの？・・・ このラインから前に出ると失格となりますので注意してください。大きな声の一番大きな値を計測します。さあ準備は出来たかな？ では 一人目の〇〇さんです。どうぞ！

- ・操作係 リモコンでスタートボタンを押す (表示回転)
- ・参加者 叫ぶ
- ・操作係 叫び終わったらスタートボタンを押す (表示消灯)
- ・司会者 では、結果を見てみましょう！
- ・操作係 スタートボタンを押す (設定に従い計測値を表示)
- ・司会者 わー 〇〇デシベルです。
- ・司会者 参加者の感想など・・・
- ・操作係 スタートボタンを押す (ゼロ表示)

参考資料

音の大きさのめやす	
120デシベル	飛行機のエンジン近く
110デシベル	自動車のクラクション (前方2m)
100デシベル	電車の通るときガード下
90デシベル	大声による独唱, 騒々しい工場内
80デシベル	地下鉄の車内 (窓を開けたとき) ・ピアノ
70デシベル	掃除機 ・騒々しい事務所
60デシベル	普通の会話 ・チャイム
50デシベル	静かな事務所
40デシベル	深夜の市内 ・図書館
30デシベル	ささやき声
20デシベル	木の葉のふれあう音

人間の耳で感じる音の大きさは、同じ物理的な強さの音でも、周波数の高低により異なった強さの音に聞こえることがあります。

そこで、人間の耳に感じる音の大きさに近似させた量を計測しています。計測した数値を騒音レベルといい、単位を「デシベル」が使われます。

(提供) 東京都環境局